

情報の共有と活用を考える

研究分野は経営情報システムで、経営活動における情報の共有と活用をシステムとして捉えています。このように言うと、「情報=コンピューター」「システム=コンピューター化」と考え、コンピューターを中心とした情報技術(IT)の研究をしていると思われるかもしれませんが、確かにITも重要な研究対象ですが、それだけではありません。経営情報システムの目的は、情報やITを活用して経営活動の効率性と有効性を高めることです。つまり、経営情報システムの研究や学習の基本は経営学であり、そこに情報活用の視点とIT活用の視点からのアプローチが加わります。よって、実践的で身近な学問領域であるとともに、先端的・学際的でもあります。

- 経営情報論
- 経営情報システム論
- マーケティング・リサーチ

石川 弘道 (いしかわ ひろみち)



1947年生まれ。早稲田大学大学院理工学研究科博士課程修了。研究3部作は『情報活用空間の探求』『経営情報の共有と活用』『経営情報の活用モデル』。趣味の分野で『落語と情報学』を著している。

60年代に経営情報システムがブームになりましたが、学部・大学院と経営工学分野において、マーケティング・サイエンスを専攻しました。そこでは需要予測モデル、特に予測情報の精度向上のためのモデル構築とパラメータ推定が研究対象でした。当時まだ、経営情報システムという科目はありませんでした。その後、経営における諸計画に必要な予測情報を研究していた関係から、経営情報システムを研究・教育の対象としました。以上の経緯からも分か

るように、私の研究は情報活用面からのアプローチが中心です。

ところで、コンピューターの歴史はおよそ60年です。その間に計算のための機械から情報処理の機械へ、そしてインターネットの普及によりコンピューターはコミュニケーションのための機械へと役割を大きく変えています。そして今、情報革命・IT革命を経て、情報社会・知識社会が形成されつつあります。産業社会における経営から情報社会における経営への変革を情報の共有と活用の視点から考えることは、まさに経営の今を見つめ、その先のあるべき姿を探究することなのです。